

# 齋賀医院壁新聞

文献情報と医院案内 齋賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

検索ボックス

<< [ACPの糖尿病ガイドランスに早くも反論](#) | [TOP](#) | [前立腺癌の診断に直腸指診は無効?](#) >>

2018年03月15日

## 原発性シェーグレン症候群

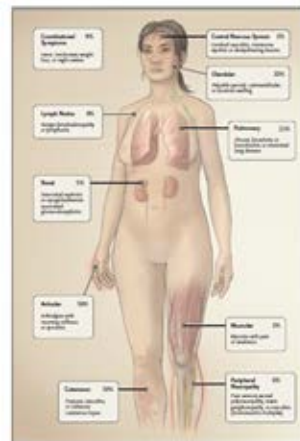
### 原発性シェーグレン症候群

Primary Sjogren's Syndrome  
n engl j med 378;10 nejm.org March 8, 2018



ドライマウスやドライアイは現代病の感じすらあります。しかし、稀ながら重大な疾病が隠れている事もあり注意が必要です。代表的疾患のシェーグレン症候群がNEJMに、総説が症例報告として掲載されていたので纏めてみました。

- 1) 男女比は1:9、発症のピークは50歳代、主な症状はドライアイ、ドライマウス、関節痛、倦怠感である。80%が上記の症状を全て呈する。そのためQOLの低下や仕事の生産性の低下をもたらす。
- 2) 二次性シェーグレン症候群は関節リュウマチ、膠原病によるものである。
- 3) ドライマウス、ドライアイ、倦怠感、関節痛は他の疾患（線維筋痛症など）でも多く認められるが、疾患の頻度としては原発性シェーグレン症候群は稀である。
- 4) 全身症状は30~40%に出現する。基本的病態は、外分泌線を越えてリンパ球が浸潤するためである。その結果、間質性腎炎、原発性胆汁性胆管炎（PBC）、閉塞性細気管支炎を起こす。又、Bリンパ球の活性化により免疫複合体の沈着で糸球体腎炎、間質性肺臓炎、末梢性神経炎が起る。SLEの腎炎と異なりシェーグレン症候群は蛋白尿の程度は軽い。



<< 2020年07月 >>

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

### 最近の記事

- (07/10) [原発性胆汁性胆管炎 \(PBC\) の新しいバイオマーカー](#)
- (07/07) [次亜塩素酸水の新型コロナに対する消毒効果](#)
- (07/06) [血尿に対するガイドライン](#)
- (07/03) [新型コロナとパルオキシメーター](#)
- (07/02) [大腸ファイバー検査の適正な間隔は?](#)

### 最近のコメント

- [原発性胆汁性胆管炎 \(PBC\) の新しいバイオマーカー](#) by (07/10)
- [次亜塩素酸水の新型コロナに対する消毒効果](#) by (07/08)
- [血尿に対するガイドライン](#) by (07/07)
- [7月を迎えるにあたり・なお一層のレベルアップ](#) by (07/02)
- [7月を迎えるにあたり・なお一層のレベルアップ](#) by (07/01)

### タグクラウド

### カテゴリ

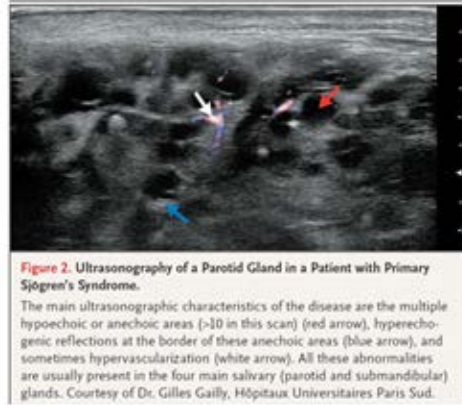
- [小児科](#) (193)
- [循環器](#) (202)
- [消化器・P P I](#) (122)
- [感染症・衛生](#) (127)
- [糖尿病](#) (110)
- [喘息・呼吸器・アレルギー](#) (84)
- [インフルエンザ](#) (99)
- [肝臓・肝炎](#) (60)
- [薬・抗生剤・サプリメント・栄養](#)

- 指導(45)
- 脳・神経・精神・睡眠障害(40)
- 整形外科・痛風・高尿酸血症(30)
- ワクチン(32)
- 癌関係(10)
- 脂質異常(28)
- 甲状腺・副甲状腺(17)
- 婦人科(8)
- 泌尿器・腎臓・前立腺(32)
- 熱中症(7)
- 日記(17)
- その他(66)

過去ログ

- 2020年07月(5)
  - 2020年06月(14)
  - 2020年05月(21)
  - 2020年04月(18)
  - 2020年03月(18)
  - 2020年02月(18)
  - 2020年01月(19)
  - 2019年12月(14)
  - 2019年11月(15)
  - 2019年10月(18)
  - 2019年09月(18)
  - 2019年08月(14)
  - 2019年07月(14)
  - 2019年06月(16)
  - 2019年05月(14)
  - 2019年04月(18)
  - 2019年03月(19)
  - 2019年02月(19)
  - 2019年01月(15)
  - 2018年12月(16)
  - 2018年11月(20)
  - 2018年10月(20)
  - 2018年09月(18)
  - 2018年08月(24)
  - 2018年07月(18)
  - 2018年06月(18)
  - 2018年05月(20)
  - 2018年04月(19)
  - 2018年03月(20)
  - 2018年02月(14)
  - 2018年01月(14)
  - 2017年12月(20)
  - 2017年11月(17)
  - 2017年10月(22)
  - 2017年09月(18)
  - 2017年08月(20)
  - 2017年07月(23)
  - 2017年06月(19)
  - 2017年05月(19)
  - 2017年04月(22)
  - 2017年03月(20)
  - 2017年02月(18)
  - 2017年01月(21)
  - 2016年12月(17)
  - 2016年11月(25)
  - 2016年10月(22)
  - 2016年09月(21)
  - 2016年08月(20)
  - 2016年07月(26)
  - 2016年06月(27)
- 以降はカテゴリーで検索してください。

- 5) 動物実験では、ウイルスの刺激により粘膜上皮の活性が起るとされている。
- 6) ドライマウス、ドライアイ、倦怠感、関節痛が診断上重要だが、時に合併症により、シェーグレン症候群の診断に結びつくことがある。
- 7) 抗SSA抗体は2/3に認められる。リウマチ因子は1/2。抗SSA抗体が陰性で、疑いが払拭できない時は唾液腺の生検が必要になる。
- 8) 唾液腺のエコーも有用である。



9) リウマチ因子の陽性、補体C4の低下、耳下腺の繰り返す腫脹は、シェーグレン症候群の悪性リンパ腫の併発の予測因子となる。

私見)

繰り返す耳下腺の腫脹、寝汗、倦怠感は実地医家ではありふれた症状です。注意深い診察が求められそうです。図をPDF化しました。関連文献を下記に掲載します。

[シェーグレン症候群.pdf](#)

[NEJMicm1210527.pdf](#)

[EULAR Sjogren's syndrome disease.pdf](#)

0	0
---	---

ブックマーク

【その他の最新記事】

- ※ [7月を迎えるにあたり・なお一層のレベルア...](#)
- ※ [医師の退職について・この時期](#)
- ※ [院長の不適切発言に対してのお詫び](#)
- ※ [実地医家にとって迅速診断は命](#)
- ※ [舌圧子とK-ポイント](#)

[RDF Site Summary](#)  
[RSS 2.0](#)

この記事へのコメント  
コメントを書く

お名前:

メールアドレス:

ホームページアドレス:

コメント:

